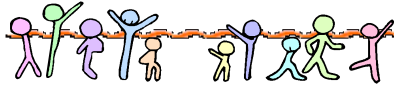


ぼうさい



発行 平成21年10月17日 第6号
NPO セーフティネット ぼうさい
〒948-0003
十日町市本町 6-3
連絡先(代表 尾身誠司)
電話 025-752-7353
FAX 025-752-7376

E-mail tbk119@jeans.ocn.ne.jp

「中越地震から五年」

代表 尾身誠司

間もなくあの中越地震から五年になります。忘れ去ることのできないあの恐怖と二度と会いたくないと思いは同じでありま
す。しかし三年後の中越沖地震、能登半島沖地震、岩手・宮城内陸地震と日本列島地震だらけで忘れさせてはくれません。日本列島は地震活動期に入っています。東海地震が発生から一五〇年以上経ち警戒されているなか、八月一日午前五時七分十日町でも緩やかな揺れで目を覚ました。テレビ放送で駿河湾を震源とする地震で震度六弱とのこと。刻々と被害状況が分かるに従え「東海地震」が頭をよぎりました。しかし「判定会」で「東海地震」とは切り離して考えるところのこと。予想される「東海地震」の規模(マグニチュード)の一八

〇分の一ということ。震源

区域は予想される区域だそうですが、メカニズムが異なるということ。負傷者が一人一人を超えているんなことが報じられています。「東海地震」に備えた静岡県は防災の先進県です。三〇年も前から対応している防災に対する取り組みはさすがだと思えます。今回の地震がさらに大地震となった時の教訓として防災関係者はもちろん市民の皆さん(自主防災組織)も検討をする必要があると思います。口を酸っぱくして言います。地震に対応するには「備え」しかありません。私たち市民の「備え」「自分の命は自分で」「地域は地域で」「守る。これに尽きます。方法はまずやれることからやりましょう。

一、家具の転倒防止
二、応急手当の方法を身につける

る

三、消火器による消火方法
四、家の耐震化。これはお金がかかりませんが、リフォームを考えている方はこの機会に耐震化を考えるべきです。

十日町市では耐震診断、耐震改修に補助制度を設けています。相次いだ地震と復興基金のおかげで自主防災組織の設置は九八パーセントとなりました。地域コミュニティの良さをバックに、少子高齢化が進むなかいかに地域連携を維持していくのが今後の課題と見えています。

日本防災推進協議会「防災ボ
スターで全国2席」受賞
会員 福原さくらさん
喜びを聞いてみました。
受賞の連絡を受けた時はいかがでしたか。
直接の電話で受賞との連絡を

頂き、大変うれしかったです。
私は、大きな地震を経験し、防
災士の勉強をしてきました。防
災は、災害が起きてからでは手
遅れになってしまいます。私が
描いたポスターを見て、まずは
防災につきっかけになってくれ
ればありがたいです。



赤十字救急法救急員養成講習会 に参加して

理事 藤木忠雄

私たちは昨年来から、十日町市
主催の自主防災組織リーダー研
修会等で「身近でできる応急措
置」として、簡潔なやり方による
骨折の固定などを地域住民に指
導してきましたが、やはり、基
本的な知識を学び、的確な応急
手当を身につけた上で指導した
方が、より効果的であることか
ら、本講習会を受講した。講習
会は7月18日(土)～20日
(月)の3日間、サンクロス十日町
にて行われ、高校生から60歳
代までの男女20数名が集まり、
「セーフティネットぼうさい」か
ら尾身、滝沢、根津、阿部、藤
木の5名が受講した。内容は大
きく分けて一次救命措置(心肺
蘇生法、AEDによる除細動)と
応急手当(きず・骨折・急病の手

当、搬送)であり、両方とも最初
に講義を聞き、続いて実技を習
う順序で行われた。心マッサー
ジもただ単に圧迫するのではな
く、心拍の波形を確認しながら
行ったため、正確な強さと間隔
を体で覚えることができた。ま
た、三角巾による包帯の巻き方
等も最初はぎこちなかったが、
指導員の模範実技やコツを抑え
た指導と、身を持って体験し、繰
り返し練習したことで、3日目
の実技試験には全員が規定時間
内に、スムーズにできるようにな
り、合格できた。今後は今回、
学んだ知識、技術を基にお年寄
りや女性・子供でも簡単に正し
くできる応急措置を指導し、地
域の防災活動に貢献して行きた
いと思います。参加された皆様、
大変お疲れ様でした。

編集後記

地震速報を頻繁に耳にするな
と感じている今日この頃です。
特に夜中の地震は揺れが小さく
ても恐く不安になります。

防災とは、そんな気持ちの不
安を取り除くことも大事なので
はないかと、最近考えるようにな
りました。当会も5年目を迎
えました。できることからこつ
こつと積み上げてゆきたいと思
います。

阿部正子

